

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300092		
法人名	社会福祉法人ほのほの会		
事業所名	あかねの里 認知症対応型共同生活介護事業所(和ユニット)		
所在地	鳥根県出雲市平田町7169		
自己評価作成日	令和2年12月3日	評価結果市町村受理日	令和3年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	鳥根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和2年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気のみならず、利用者様の笑顔を引き出し、職員と共に安心して生活できるよう努めています。又、ご家族とのコミュニケーションや信頼関係を大切に日々運営を行っています。
 ・ご自分でできる範囲の身の回りのことや家事をすることで、自立した生活につなげるとともに、生活意欲が向上するよう努めています。コロナ禍における面会制限や外出制限で起こりがちなストレスが出来るだけ最小限にとどまるよう、中庭テラスでの外気浴やレクリエーション、また、広いホールでの暖らんに心がけている。
 ・隣の温泉施設からの源泉を入浴に使用し、利用者様に癒しを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川や公園、学校が近くにあり、また、スーパーや温泉施設、各商店など、恵まれた市街地にホームはあるが、出雲市においてもコロナ禍であり、利用者さんの日常は外出、散歩などが制限されたものになっている。面会制限も行っているが、家族も納得しており、ICTで様子を知らせたり、来られた関係者には、動画で様子をみってもらうなど、関係が断ち切られないよう工夫している。「利用者さんと職員が家庭のつぎに安心してともに暮らせる」ことを理念としており、二つのグループホームと認知症デイサービスにおける認知症の方々に職員全員が親しみをもって接し、互いがこころを許し合っている様子がうかがえた。温泉施設からの配管により、掛け流しの温泉での入浴は、ホームだけでなく、同法人の他施設の利用者さんも訪れては、楽しんでおり、健康・皮膚のケアに効果的である。利用者さんは、各部屋でゆったりとプライベートな時間を過ごしたり、ホールに出るときには、合わせ着などで、おしゃれをして、みなで、お茶や談話、軽作業などを楽しむなど、おだやかに暮らしておられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼において、管理者先導で理念を唱和し、共有を図っている。それにより、職員は意識を高め、仕事に臨んでいる。	「利用者さんと職員が家庭のつぎに安心してともに暮らせる」という理念は、長年にわたって定着した職員と利用者さんとの信頼関係が築かれていることで日常的に実践されている。新しい職員も個性や才覚を最大限発揮して、個々の人格に対応した質の高い認知症ケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況でも可能な範囲で、実習生や職場体験を受け入れ、地域とのつながりの継続に努めている。	町内会の一員として、四季の行事には当たり前のように参加していたが、コロナ禍にあっては、溝掃除があった程度。また、数十年にわたって福祉に貢献してきた法人としての信頼を地域から得ており、ボランティアや研修等人々が集まる場としての役割を今後も担うつもりだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況でも、地域の人々に理解や支援をしてもらえるよう、毎月発行している広報誌を近隣町内に回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを報告し、委員のかたがたから意見等をいただいている。それも参考にして、サービスの質の向上に努めている。	会議は二ヶ月毎に、行われてるが、コロナ禍においては、書面会議を余儀なくされたこともある。参加者は、文書において活発な意見を提出するなど、熱心に関わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で取り組み等の報告を行い意見をいただいている。又、電話で質問をしたり、アドバイスを受けている。	市職員とは、会議で都度議題を提言するとともに、制度についての助言を受けたり、年間を通じて、ホーム運営や利用者さんの入退居についても相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の状況で外部研修の参加は控えているものの、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度開催し、その会議録を全体回覧にて周知している。	身体拘束については、管理者、職員共に検証を行っている。利用者さんの行動を常に尊重し、部屋も利用者さんと一緒にかたづけたり、時には散らかしもそのままにする。服も2～3日着たらさりげなく洗濯して、一緒に干す。個室のドアの開け閉めも利用者さん本位である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のなか外部研修の参加は控えている。しかし、虐待の前段階には身体拘束及び不適切なケアが存在することを啓発した後に、スピーチロックについての内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の状況で外部研修の参加は控えているが、一般職員も輪番制で参加する「運営会議」において、そのまつわる議題を挙げ学びの機会を設けている。その会議録も全体回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所を見学いただくよう働きかけている。又、面談(実態調査)を行い、十分な説明のもと理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族会総会の開催(書面開催)等で、意見・要望を拾い上げられるよう努めている。	コロナ禍のため、面会制限をしているが、ICT活用で家族とのコミュニケーションは、十分に行っており、感じたことなどを意見や要望として受け取っている。遠方の方には、利用者ご本人のお手紙や写真を添えて送り、密に連絡を取る中で、意見や要望がケアに反映されるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット合同会議(適宜開催)・運営会議(毎月開催)等で、意見を聞く機会を設け、運営の改善に反映させている。	管理者は、職員の個性を尊重し、よいアイデアや意見が発言しやすい職場環境に心がけている。職員も自ら学び、研修参加や資格取得などスキルアップも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の力量等を把握したうえで、職場環境・条件の整備に努めている。又、法人独自のキャリアアップシステムも活用し、職員の意欲向上に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の状況で実施は控えているものの、法人内基本研修及び階層別研修の仕組みは整備されている。又、必要不可欠と判断した外部研修には参加するよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の状況が落ち着けば、平田地域福祉研修協議会の主催する研修等に積極的に参加するよう促し、各職員が交流の輪を広げられるよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で正確な情報収集を行い、要望等の把握に努めている。そのうえで、入所後の生活を支援し、スムーズになじみの関係性が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時や契約時に情報をつぶさに収集するよう努めている。それにより、ご家族ともなじみの関係がスムーズに構築できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話し合いのなかで、しっかりと状況把握を行い、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を「支える」だけの一方的な関係ではなく、ともに外出や家事等を行うことで「支え合う」関係の確立に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、ご家族との情報交換を大切に、本人を共に支える体制づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の状況でそのあり方に制限はあるものの、気軽に面会に寄っていただける雰囲気づくりや、ゆかりの地に出かけられる環境づくりに努め、思いに沿った支援の実現を心がけている。	入居者は、近隣からの人が多く、コロナ禍においても面会の代わりにスマートフォンなどを利用して様子を確認するなど、日常的に交流を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の各利用者様の関係性に気を配り、時には職員が架け橋となり、和気あいあいとした生活の実現を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の状況でも活用可能な地域資源を模索して。地域住民の厚意により、持参された菊の鑑賞会などで生活の質の向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り在宅生活時のかかりつけ医に継続的な医療面の関わりをお願いしている。定期的な受診、又は突発的な受診とも、ご家族と連絡をとり対応している。	近隣の医師の往診でも、利用者さんは、くつろいだ雰囲気での診察を受ける。医療管理についても、家族は安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は各利用者様の日常の心身の状態を把握したうえで、変化が見られた際は、速やかに看護師に報告と相談を行う。それにより、早期の対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関はもとより、ご家族とも話す機会を設け情報共有を図り、一体となった支援を行える関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所が提供できるケアの説明を行い、本人・ご家族・主治医の了承を得たのちに、重度化した利用者様の支援に取り組んでいる。	終末期のケアマニュアルが完備されており、本人、家族、かかりつけ医や看護師、経験豊富な介護職員などが何度も話し合っており、連携も構築されていることから、今後も、看取りについては、状況に応じて、対応可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習(新型コロナウイルスの影響により、今年度未実施)を受講し、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域合同避難訓練(新型コロナウイルスの影響により、今年度未実施)や自衛消防避難訓練を実施し、有事の際にスムーズな対応ができるよう努めている。又、法人内の事業所をまたいでの緊急連絡網や緊急避難場所も用意している。	町内での防災担当者の協力により、地元消防団や近隣住民の参加による訓練は、夜間想定などもあり、年二回以上計画されているがコロナ禍のため延期されている。ホーム周りの道路は広々としており、建物も接近していないので、避難場所は十分に確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や個性に配慮した声かけを行っている。個別の事案についても、都度対応方法を職員間で協議するよう努めている。	一人一人の暮らしのリズムを個別に配慮している。ドアの開け閉め、部屋の片付け、入浴時間、など様々な生活場面において本人のスタイルを尊重しており、一方的な援助は行われていない。昼食時は、共に合唱して食べ始め、気持ちの良いマナーが励行されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に対し、本音を言ってもらえる関係性の構築に努め、自己決定が日常的に行える雰囲気づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のお茶会等での会話のなかからニーズの把握に努め、なるべく希望に添えられるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、好みの衣類等を選んでいただき、継続的に意欲や意思を持っていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者様の残存能力に合った調理作業を行っていただきながら、その料理に関する会話も楽しんでいただくよう努めている。又、職員も一緒に食卓を囲むよう心がけている。	ホールに張り出したキッチンのは、家庭のダイニングキッチンのように、皆がそこに集まって、会話やお茶、食事を楽しめる。調理を共にしたり、おいしそうなお味がただようのも暮らしには欠かせない。飲み込みしにくい方にもミキサーなどで、一つ一つ柔らかくして、供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の毎食の食事風景を観察し、摂取量や嗜好等を把握するよう努めている。より良い栄養状態に近づけられるよう、そのかたに合った食形態や嗜好に沿った食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助で口腔ケアを実施している。義歯洗浄は原則週に1回行っているが、個別的に毎食後に実施しているかたもある。日頃から、個々の口腔内の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導に努め、訴えがあった際もすぐに対応できるようにして自立支援を行っている。	新たに入居すると、一ヶ月程度で、本人の排泄パターンが把握できるという。おむつをしていた方でも、トイレでの排泄が出来るよう援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の排便リズムを把握し、水分をしっかり取るよう促したり等で、そのかたに合った働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週2回以上は入浴していただけるようにしている。又、入浴の希望があった際には、それに沿うよう努めている。又、失便等あれば臨時的に入浴するよう努めている。	浴室からは、歌声が聞こえることもある。職員は自分の体と同じ思いで、利用者さんの入浴を援助している。掛け流しの温泉にいつでも入れることも、グループホームとしては大変めずらしく、健康や肌にもよい効果が期待できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の特性やその日の状態を把握したうえで、休息、又は活動を促す声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心として、個々の薬について理解を深めるよう努め、間違いのないよう確認し支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をきちんと把握し、それぞれの状態に応じ役割を持っていただくよう心がけている。又、それぞれの嗜好品についても把握に努め、個別ケアにつながるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リビングから段差なく出入りできる中庭を利用した日光浴をさまざまな介護度の利用者が楽しんでいる。又、その中庭に野菜や花をプランター栽培し、その世話を楽しんでいる。	コロナ禍のため、日常的な外出が難しくなっている。収まれば外出企画も再開するつもりだ。自宅への帰宅や毎日の徘徊などにも、個別に対応していきたい。認知症の方への親身で質の高いケアが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している方はおられないが、希望があれば、本人やご家族と相談し、柔軟な対応ができるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば望まれる先に電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。又、各利用者様の希望を引き出すことにも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・鉢植え・壁飾り等、季節感を取り入れ、明るい雰囲気なかで生活されるよう支援している。	ホールや幅広の廊下は明るく清潔であり、利用者さんはそれぞれが、ゆったりと過ごしている。中庭のデッキやオープンキッチンなどでも活動できる。ホールや個室、トイレなどが機能的に配置され、ホーム周辺の景色も眺められて開放的である。野菜畑から収穫された新鮮な食材が食卓に上る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを置き、一人静かに過ごしていただける環境を整えている。又、リビング中央には、大テーブルを配置し、会話を楽める空間も備えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族との話し合いのもと、なじみの物を置くなどして、そのかたの好みに合った居室環境を整えるよう努めている。	個室はご本人にとってのプライベートな空間として尊重されており、本人の意向が最大限守られおり、個性的で、そのひとらしく設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり・トイレの目印等の設備を整えることで、安全で可能な限り自立した生活が送られるような住環境になるよう努めている。又、オープンで単純明快な構造であることも、混乱の回避につながっている。		